

平成 22 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社豆蔵 OS ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 荻原 紀男
(コード番号 3756 東証マザーズ)
問合せ先 IR 担当
(TEL. 03-5339-2100)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

株式会社豆蔵 OS ホールディングス（以下、当社）は、昨今の経済状況を鑑み下記のとおり、特別損失を計上いたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。なお、平成 22 年 3 月期の 1 株当たり配当予想額については変更ありません。

記

1. 特別損失の発生

当社グループは、平成 21 年 9 月 1 日付「債権の取立遅延のおそれに関するお知らせ」にて発表しております貸付金に対する担保の見直しを行い、貸倒引当金を 27 百万円、ロッカーポスト事業の縮小に伴う固定資産の見直しにより除却損を 45 百万円、子会社の売却に伴う売却損 2 百万円をそれぞれ特別損失として計上いたします。

2. 平成 22 年 3 月期業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,800	300	260	120	3,886.51
今回発表予想 (B)	3,050	△200	△230	△220	△7,228.99
増減額 (B - A)	△750	△500	△490	△340	-
増減率 (%)	△19.7%	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 21 年 3 月期)	3,789	273	261	46	1,492.10

3. 業績予想修正の理由

情報サービス産業におきましては、厳しい経済環境を反映して、依然として、業界全体での低迷が続いております。

このような状況の下、当社グループは、M&A を含む事業基盤の整備・拡大と並行した事業分野の見直しに加え、人件費（役員報酬の減額、従業員賞与・給与の減額など）の削減を含め様々なコスト削減施策を行った結果、当第 4 四半期連結会計期間（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）からは、

黒字化する見通しです。一方で、当第 3 四半期連結累計期間（平 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）における業績の低迷を吸収するには至らず、業績予想を修正することいたしました。

（売上高）

売上高につきましては、当第 3 四半期連結累計期間においてビジネス・ソリューション事業の受注に至るまでのリードタイムの長期化、公共案件の凍結など厳しい状況に直面した結果、予想を下回る見通しとなりました。

（営業利益、経常利益）

原価におきましては、当第 4 四半期連結会計期間以降、原価率の回復が見込まれるもの、当第 3 四半期連結累計期間までの原価率の悪化を吸収するには至らない見通しとなっております。

販売費及び一般管理費においては、要員の自然減少分の補充見合わせ、外注業務の内製化などコスト削減施策を実施し、これに加え人件費（役員報酬の減額、従業員賞与・給与の減額など）の削減を実施いたしました。しかしながら原価率の悪化を吸収できず、営業利益の予想を下回る見込みです。

また、経常利益につきましても営業外収益として、保険解約に伴う雑収入等が発生するものの、持分法投資損失等により予想を下回ることとなりました。

（当期純利益）

当期純利益につきましては、各段階損益の悪化に加え、上記の通り特別損失として 75 百万円を計上することにより、予想を下回ることとなっております。

※ 上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は種々の要素によりこれらの業績見通しとは異なる場合があります。

以上